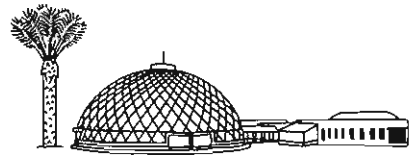


かんちけん倶楽部

TOTTORI KANCHIKENCLUB



2010年度乾燥地研究センターの研究活動

■ 乾燥地研究センター創設20周年記念行事を開催

乾燥地研究センターでは、1990（平成2）年に農学部附属砂丘利用研究施設を改組し、全国共同利用施設として出発してから20年を迎えたことから、これを記念して、6月に以下の記念行事を開催しました。

○記念講演会

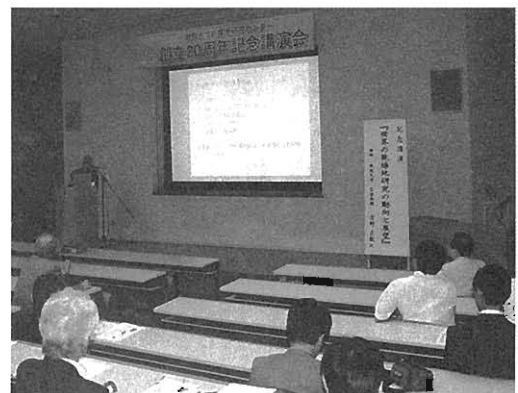
期 日：平成22年6月18日（金）
会 場：とりぎん文化会館（鳥取県民文化会館）
第1会議室

○記念祝賀会

期 日：平成22年6月18日（金）
会 場：ホテルニューオータニ鳥取 鶴の間

○展示イベント

期 間：平成22年6月15日（火）～19日（土）
会 場：とりぎん文化会館（鳥取県民文化会館）
フリースペース



講演を行う吉野先生（左端）

記念講演会では、初代センター長の矢野友久名誉教授から、乾燥地研究センター改組への歩みについて講演をいただき、また、特別講演として、筑波大学名誉教授の吉野正敏先生を講師にお招きし、「世界の乾燥地研究の動向と展望」と題して講演をいただき、約120名の関係者が熱心に聞き入っていました。

記念祝賀会には、歴任教職員・卒業生約80名が参加しました。中でも、祝賀会の中で流された20年を振り返る映像については、写真を見ながら一喜一憂する同窓生も多く、当時を思い出して会話が弾み、楽しい会となりました。

また、記念講演会と併せて開催された展示イベントについては、地域の方に「乾燥地科学研究」の一端を理解いただくために、分かり易く説明したパネルの展示を行い、たくさんの方にご覧いただきました。

さらに、20年間の歩みを記録した冊子を作成しました。



2010年度乾燥地研究センターの活動報告

■ 拠点大学交流事業による「日中合同セミナー」を開催

平成22年9月13日～14日に、本センターが日本学術振興会拠点大学交流事業で共同研究を行っている、中国科学院水土保持研究所との合同セミナーを開催しました。

本事業は平成13年度から開始し、最終年である今年度のセミナーには、中国から30名の研究者が来鳥し、10年間にわたる中国・黄土高原での研究について、全体討議及び各課題別発表を通じて研究成果をレビューするとともに、本事業成果の発表として出版する英文書籍の作成作業等の確認・協議を行いました。



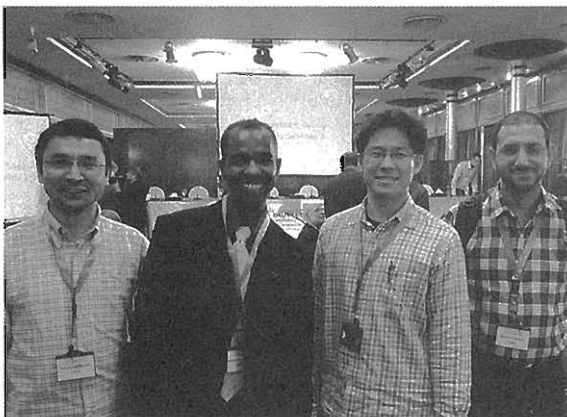
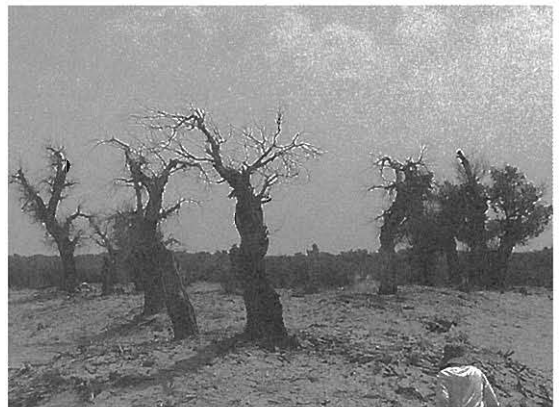
■ 研究交流促進事業

(大学院生での海外での研究活動に対する支援：平成22年度 23名)

<鳥取大学大学院連合農学研究科国際乾燥地科学専攻 村田 直樹>

乾燥地研究センター緑化保全部門に在籍し、中国の乾燥地域の緑化に関する研究を行っています。乾燥地域の問題は日本人にはなじみが薄いかもしれませんが、例えば黄土高原の砂漠化は黄砂の飛来などを通して日本にも直接的な影響を与えています。

2010年度にかんちけん倶楽部の支援を頂き、中国タクラマカン砂漠周辺の植生調査とエジプトで開催された国際会議参加のために海外渡航させて頂きました。タクラマカン砂漠を縦断する砂漠公路では道路が砂に埋もれてしまわないように点滴灌漑や草方格といった様々な技術を使って道の両側を緑化していました。これまで写真でしか見たことのなかったこれらの緑化技術によって砂漠で植物が力強く茂っている様子を実際に見ることができ、とても貴重な経験を得ることができました。



エジプトでの国際会議「International Conference on Dryland Development」では、世界の研究者が現在どのようなことに注目しているのか、砂漠化や干ばつに対してどのように考え、取り組んでいるのかを知ることができました。また多くの方々から自身の研究への様々な意見や助言を頂く事が出来ました。

今後も海外調査や国際会議で得た多くの知識や経験をもとに、乾燥地研究を発展させていくことができるように頑張っていきたいと考えています。

乾地研のひと

〈准教授 藤巻 晴行〉

昨年4月に乾燥地研究センター緑化保全部門に准教授として着任いたしました。平成12年度に乾燥地研究センターの土地保全学研究室で博士号を頂き、2年間のCOE研究員の後、筑波大学に採用され、以後10年間筑波で暮らしました。筑波では実り多く、楽しい日々を過ごしましたが、12年間を過ごし、研究活動の原点となった鳥取大学はやはり私にとって大切な場であり、妻が鳥取出身でUターンを希望したこともあり、一昨年の公募の際に応募させて頂きました。FM局が開設されたり、賀露にショッピングセンターができたり、高速道路が開通したりとすっかり便利になり、一方、豊かな自然は変わることなく、10年ぶりに蛍の乱舞を見た時にはやはり住むなら鳥取だ、としみじみ思いました。



専門は乾燥地土壌保全学です。砂漠化の物理的過程である土壌侵食と塩類集積を、放牧や灌漑農業といった生産活動を維持しつつ防ぐための方法を研究しています。農林業や牧畜業は人間が自然を管理する営みであり、適切に管理するためには、灌漑や施肥、マルチングといった自然に対する働きかけの結果を正しく予測する必要があります。複雑な相互作用を考慮しながら予測するには、数値モデルが役に立ちます。私は数値モデルの研究開発を研究活動の柱の一つとして進めています。もちろん、数値モデルは用いている式や式中のパラメータ値で結果がいかようにも変わるため、パラメータの測定実験や信頼性検証実験が欠かせませんし、数値モデルそれ自体が砂漠化を防ぐ技術というわけではありません。数値モデルを活用していかに節水や塩類集積防止や土壌侵食を防ぐか、提案と実験を重ねています。

一昨年から、筑波大学が主体となっているJST-JICAプロジェクト「ナイル川流域における食料・燃料の持続的生産」(2009-2014)に参加しており、昨年度も延べ4ヶ月ほど滞在しました。もともと当プロ



ジェクトには鳥取大学から井上先生と北村先生が参加されており、鳥取に移ってからも引き続き活動しています。私は主に点滴灌漑やマルチングなどの節水策の効果の評価と、現在海に排出されている農業排水を利用したバイオ燃料の栽培技術の開発を担当しています。

甚だ微力ながら、自分を育ててくれた乾燥地研究センターに多少なりとも恩返しできればと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

■ インターナショナル・アリド・ラボが竣工

平成22年8月、国際的に卓越した先端研究施設の整備として、乾燥地研究センターに、インターナショナル・アリド・ラボが竣工しました。本施設は、砂漠化対策としての植物遺伝子資源研究や黄砂対策研究の推進及び若手研究者の教育・研修スペースとして整備されました。

本ラボは、既設のアリドドームの形状に合わせて円形の建物とし、屋上部分には植物栽培温室が、また、中央吹き抜けに部分は展示スペースとするなど、乾燥地に特化した研究施設として、シンボリックな形状となっています。



－ NEWS － (2011年行事予定)

○乾燥地研究センター 一般公開

乾燥地研究センターでは、センターの研究活動を広く一般のみなさまに理解いただくため、毎年夏に一般公開を実施しています。2011年度は、8月12日（金）を予定しております。当日は、研究室企画の「砂漠博士」認定の体験型実験、講演会などを行います。



乾燥地の自然環境を再現するアリドドーム

○乾燥地学術標本展示室等の休日公開

乾燥地研究センターでは、土・日・祝日に「ミニ砂漠博物館」を公開しています。

センターまでは、ループ麒麟獅子号をご利用ください。

乾燥地研究センターへのアクセス

【ループ麒麟獅子号】

土・日・祝日（元日は除く）・夏休み（7月20日～8月31日は毎日）運行

運行時間等詳細は、鳥取市観光協会ホームページ「ループ麒麟獅子バス」を参照してください。

URL：http://www.torican.jp/roop_bus/



【とっとり乾地研倶楽部の設立趣旨】

砂漠化防止や乾燥地農業について世界的に貢献している鳥取大学乾燥地研究センターは、世界の乾燥地研究ネットワークの中核として学術研究、人材育成に大きな役割を果たしており、地域にとっても世界に誇るべき知的財産です。

そこで、鳥取大学乾燥地研究センターの活動を地域で支え、その研究活動と研究成果を広く情報発信することを通じてこの地域の発展を図るために「とっとり乾地研倶楽部」を設立しました。

発行：とっとり乾地研倶楽部事務局

鳥取商工振興協会 〒680-0031 鳥取市本町3丁目201番地
TEL(0857)26-6886 FAX(0857)22-0155